

知育菓子と好奇心

中 3-A-27 中村 由奈

目次

はじめに

第一章 知育菓子について

第一節 知育菓子とは何か

第二節 知育菓子は何のために作られたのか

第二章 知育菓子が子どもたちに与える影響

第一節 知育菓子が子どもたちに人気な理由

第二節 好奇心の育成

第三章 子どもたちの好奇心が重要視される理由

第一節 知的好奇心

第二節 好奇心と学力

第三節 知育菓子の目指すところ

第四章 知育菓子の目指すところ・この論文を通して

おわりに

参考文献

はじめに

私がこのテーマで研究しようと思ったきっかけは、子どもの好奇心という分野に昔から興味があったからである。しかし、ただ普通に調べて考察するのは面白くなさそうだと考えた。そこで、幼少期によく両親に「買ってほしい」とねだっていた知育菓子を研究の対象にした。

多くの人は知育菓子等に対する好奇心を忘れてしまっているのではないだろうか。好奇心がいかに大切かどうかをこの論文を通して知ってもらいたい。

第一章 知育菓子について

第一節 知育菓子とは何か

まず、知育菓子とは何か詳しく説明しようと思う。難しそうな響きだが、例としてあげるならクラシエフーズ(株)の“ねるねるねるね”や“おえかきグミランド”のようなものだ。(下図)



簡単にいえば、工作のように遊びの一環としてお菓子作りのできる商品である。幼少期にこれらを好きだった人は多いのではないだろうか。実際、私はよく両親に購入をねだっていた記憶がある。また、「体に悪そうだから駄目」と言われて保護者に購入を却下された経験はないだろうか。もちろん、食べ過ぎは良くないが、保存料や合成着色料は全く含まれていないらしい。安全に楽しく遊べるうえに食べられるというのが知育菓子の大きな魅力ともいえるだろう。

知育菓子についての説明は以上だ。

第二節 知育菓子は何のために作られたのか

クラシエが運営しているサイト「みんなの知育ひろば」を閲覧したところ

“「おやつ時間に夢中で作る。そんな楽しい体験を通して、子どもの成長に大切な力を育むお菓子。」

知育菓子®はそうした存在でありたいと願っています。”

と記されていた。また、「知育菓子は子どもたちの創造性を育み、親子の時間が豊かになることを目的に開発された商品である」とも記されていた。クラシエフーズは子どもたちが、おやつをお腹いっぱい食べることもおやつで楽しい体験ができることを求めているという傾向をつかみ、お菓子を用いた知育や親子での思い出づくりのきっかけなどを目指しているのだろう。

また、クラシエフーズは知育菓子教室というものも昔は開催しており、子どもたちの自発性、継続的な体験、経験を作ることを目的としていたそう。そして、知育菓子を使用する授業を考え、実践する先生のことにも定期的に募集しているらしい。より優秀な授業をした先生には「知育菓子先生」というクラシエ認定の資格が得られ、さらにその後の授業のために希望した知育菓子を無償で提供してもらうことも可能らしい。

第二章 知育菓子が子どもたちに与える影響

第一節 知育菓子が子どもたちに人気な理由

ここでは知育菓子が何故子どもたちに人気なのか考察していこうと思う。知育菓子の魅力といえば、遊び感覚でお菓子を作ることができるという点だろう。第一章の内容と少し重複してしまうのだが、いくつかサイトを見ているうちに、幼稚園や小学校の授業で知育菓子を用いる先生がいると分かった。「こどもとIT」というサイトによると、静岡サレジオ幼稚園の青木織江先生は「ねりキャンワールド」（図1）を使って好きなものを制作し、表現する活動を実施したそうだ。

（図1）ねりキャンワールド（外装）と作ることのできるソフトキャンディの例

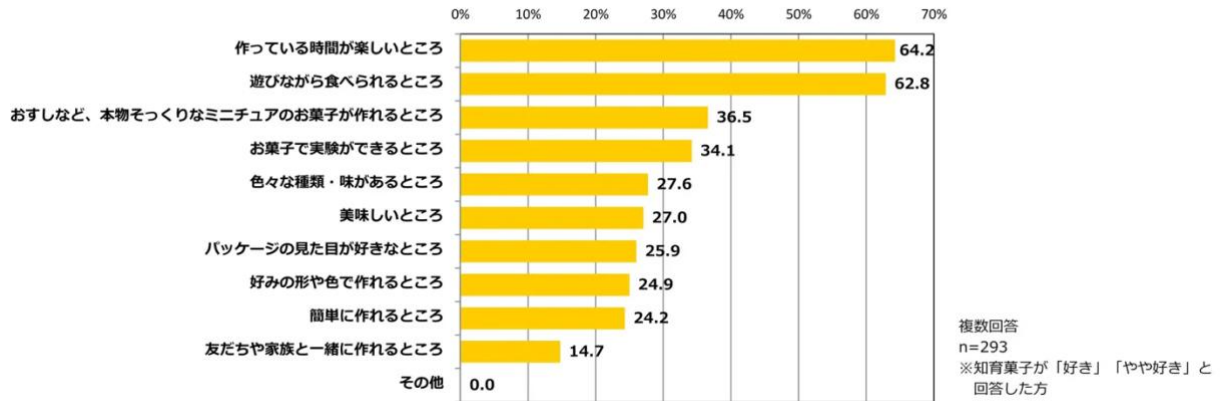


この活動を実施するまでは、青木先生は子どもたちは10～30分もすれば飽きてしまうと思っていたらしい。しかし、結局全員が1時間ほど集中して活動をしていたという。では、なぜここまで集中できたのだろうか？青木先生は「“お菓子で作る”という特別感や香りや感触を味わいながら楽しめることが子供の創造力をふくらませ、集中できる姿に繋がった」「ねんど遊びの時よりも、子供たち同士の会話も多く、手先、言葉、思考力、豊かな感性と表現など、子供の育ちに繋がるさまざまな姿が見られた」と語っている。たしかに、ねんど遊びよりもお菓子作りの方が何倍も特別感があるように感じられる。また、クラシエフーズのサイトによると「知育

菓子を好きな理由」という題で調査が行われていた(図2)。

(図2) 調査結果のグラフ(クラシエフーズのサイトより引用)

Q : 知育菓子の好きな理由は？(お子さま)



全体の64.2%が「作っている時間が楽しいところ」と回答し、62.8%が「遊びながら食べられるところ」と回答した。やはり、ねんどでいくら食べ物をつくったとしても、それらを食べることはできない。しかし知育菓子なら作る楽しさに“食べることができる嬉しさ”が追加される。ねんどで作った作品を食べたいと思ったことは誰も1回くらいあるのではないだろうか。その夢を実現できるのだから、人気なこともすんなりと理解できる。それに加え、36.5%は「本物そっくりなミニチュアのお菓子が作れるところ」と回答している。子ども達は何かと親の真似をしようとするように感じる。好奇心というテーマからは少し離れてしまうが調べてみることにした。「コノバス」というサイトによると、理由は大きく2つあるらしい。1つ目は「成長・学びのため」人は他人を真似することで社会性を身につけ、知識や技術を身につける。これは子どもに限らず、私たちも無意識にしているように思える。“学ぶ”は“真似ぶ”とはまさにこのことではないだろうか。2つ目は「親への愛着」。「パパ、ママが大好き」というような親への愛着から子どもは親の行動を真似し始めるらしく、これらの行動は後に親への感謝や尊敬の気持ちを育むのだそう。子どもが親の真似をしているように感じるのは気のせいではなかったようだ。これらのことから知育菓子が人気な理由は把握できた。

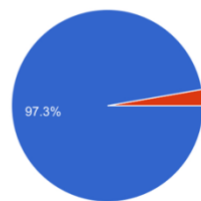
第二節 好奇心の育成

知育菓子が子どもたちに与える影響の1つに「好奇心の発達」があると私は考える。知育菓子の知名度、そしてそれらが子どもたちの好奇心を刺激するかどうか調査するために本校生徒を対象として教育通信アプリ Classi を利用してアンケートを実施した。質問数は2つに設定し、1つ目の質問は単純で、「知育菓子を知っているか」というものにした。2つ目は「知育菓子の購入を保護者にねだった経験があるか」というものにした。「好奇心を揺さぶられたか」という質問が最も分かりやすい

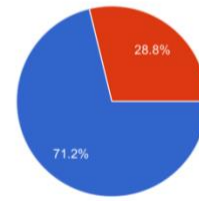
のだが、それだと捉え方に個人差が生まれてしまう。そのため、購入を保護者にねだったということは好奇心を刺激されたという証拠ではないかと判断し、質問内容を設定した。各質問に対する回答集約結果を下に円グラフで示す。

その結果約 97%の人が知育菓子(ねるねるねるねなど)の存在を知っていると答え、約 71%の人が購入を保護者にねだった経験があると回答した。よって、知育菓子は子ども達に知名度が高く人気であることと子ども達の好奇心を刺激するということが分かった。(下図)

知育菓子(ねるねるねるねなど)の存在を知っていますか
295 件の回答



知育菓子を買ってほしくて保護者にねだった経験はありますか。
295 件の回答



では、子どもたちの好奇心は他にどのようなことで刺激され、育成されるのだろうか。いくつかのサイトで調べたことを示しておく。

1) 図鑑などで情報をインプットする

東北大学加齢医学研究所の瀧靖之(たき やすゆき)氏によると世の中の様々な事象を図鑑等を通してインプットすることで興味関心を広げられるそうだ。写真なども多いほど良いという。

2) さまざまな場所に行く

動物園や博物館で本物を見ることによって脳内の情報とリンクし、子どもたちの好奇心を強く刺激するらしい。

3) 親が楽しんでいる様子を見せる

大人がワクワクしながら情報を集めたりしていると子ども達は「何してるんだろう？」と思い、興味(好奇心)をかきたてるらしい。親に限らず、周りの人が楽しんでいる様子を見たときに気になるのは私たちにも共通するのではないだろうか。

4) どうして?もし~したら?どうやったら? を考える

まず多くのことに疑問を持つてみるのが好奇心のスタート地点になるらしい。質問別に効果などを紹介しておく。

・ どうして?の質問

この質問により、既存のものがなぜそのような状態や仕組みになっているのかを考えることにより、今まで知らなかった背景が見えてくることも沢山あるのだという。

- ・もし～したら？の質問

視点を替えるために非常に有効的な質問。既存の条件を変えることで今までになかった視点から物事を考えることができるそう。

- ・どうやったら？の質問

アイデアをたくさん生み出したい時に活用できる質問。既存の考えとは異なる創造的な解決策が生まれやすいとも言われているらしい。

第三章 子どもたちの好奇心が重要視される理由

この章では知育菓子のことからは一旦離れて、好奇心について少し真剣により深く掘り下げていこうと思う。

第一節 知的好奇心

先述の第二章第二節で示されている「子どもたちの好奇心」には実は名前があり、知的好奇心という。これは「新しいことを知りたい」「なぜそうなるのか。理由が知りたい」という目的で湧いてくるものである。2～3歳の子供がさまざまな物や者の名前を「なになに？」と聞く「第一質問期(なになに期)」や3～4歳の子供が物事に対する原因や理由、目的、結果などを「なぜなぜ？」と聞く「第二質問期(なぜなぜ期)」が知的好奇心の代表的な表れ方と言えるだろう。これらは、何か課題に直面した時に解決しようとする力の源となる。幼いうちから知的好奇心を養っていれば様々なことに意欲的になり、上達も早い。つまり、知的好奇心は生きていく上で必要不可欠なのである。

第二節 好奇心と学力

好奇心は学力に影響すると耳にする機会が多いが、本当なのだろうか。また、影響するとするならばどのようなことが効果的なのだろうか。好奇心の種類とともに考察していこうと思う。

ジョージメイソン大学のカシュダン教授は好奇心には5つの側面とそれらから導かれる4つの好奇心タイプがあると論じている。5つの側面とは次の通りである。

A) 心踊る探究(Joyous Exploration)

自らの成長を求めることに貪欲であり、新たな情報や知識を学ぶことに喜びを感じる好奇心。この側面を強く持つ人は学ぶこと自体に喜びを得ており、生きる喜びを感じやすいタイプとも言えるそう。

B) 欠落感(Deprivation Sensitivity)

知識や情報が足りないという不安感を補うための好奇心。この側面を強く持つ人は問題解決に取り組む姿勢が強く、知識等のギャップを埋めるために行動を尽くすという。

C) ストレス耐性(Stress Tolerance)

新しいことや珍しい物に対する不安を受け入れて活かそうとする好奇心。この側面を強く持つ人は新しい場所や新しいことを探究する際に感じる不安などの不快感が少なく、新しいことにも寛容に接し、活かそうとする姿勢があるらしい。

D) 社会的好奇心(Social Curiosity)

周りの人がどのような思考や行動を取ろうとしているのかを人と関わる中で聞いたり観察したりすることで知ろうとする好奇心。この側面を強く持つ人は相手の情報を知ること尽力する傾向があり、噂話にも関心が強くなる場合もある。

E) 高揚感の追求(Thrill Seeking)

複雑で真新しい強烈な経験をするためには物理的、社会的、金銭的なリスクを追うことも気にしないという好奇心。この側面を強く持つ人はいい人生を歩むためには快楽を必要不可欠な要因として捉えている場合が多いそう。

また、これらの5つの側面の組み合わせによって存在する4つの性格タイプも紹介しておこう。

① 魅了タイプ(Fascinated)

興味関心が広く、人生を冒険として捉えている。4つのタイプの中で最も教育水準が高く、経済的にも裕福な傾向がある。社会的な課題に取り組んだり、快楽にも価値を感じているタイプ。

② 問題解決タイプ(Problem Solvers)

努力家で、解くべき課題に取り組みながら学ぶのが大好き。ソーシャルメディアや他人への興味は強くなく、贅沢品にも関心が薄いタイプ。

③ 共感タイプ(Empathizers)

自らを内向的と思っており、人と直接関わるよりも観察することを好む。物事が計画されていないと不安になるタイプ。

④ 回避タイプ(Avoiders)

最も好奇心が薄く、自信がなく、学力や収入も低い傾向にある。困難な状況やわからないことを避ける傾向があるので、興味関心の分野が狭く、専門知識も限られ

るタイプ。

これら5つの側面と4つの性格タイプを(表)にまとめたものを次に示す。○は他に比べてA~Eがそれぞれ高いことを示し、×は低いことを示す。また、—は他のグループとさほど変わらないことを指す。

	A	B	C	D	E
①	○	×	○	○	○
②	—	○	○	—	—
③	—	×	—	○	×
④	×	×	×	×	×

(表)

①魅了タイプと④回避タイプとを見比べてみる。

①:好奇心が高く、学力や収入も良い。

④:好奇心が低く、学力や収入はあまり良くない。

これらのことがこちらのサイトからは読み取れる。やはり、好奇心の高いグループの方が全体的に見て学力が高く、好奇心の低いグループの方が学力は低い。やはり好奇心と学力は関係していたようだ。

第四章 知育菓子の目指すところ・この論文を通して

この章は主にこの論文全体を通しての考察になる。第一章などでも述べた通り、知育菓子は子ども達の創造性や好奇心の育成を主な目的としていることが分かった。好奇心の大切さについて、今までは何となくただ、大事なんだなあと思っていたことについて深く知ることができた。好奇心と学力は基本的に比例する。子どもたちのなぜなぜ期にも実は意味があった。などなど様々なサイトを開く機会があり、知ることができた。将来教師に限らず、自分が子どもたちの何かを指導する立場になったとき、論文作成を通して得た知識を使って子どもたちの好奇心を高めていけたらと思う。昔はただ楽しいだけだった知育菓子も調べれば調べるほど色んな想いが込められているのだと知ることができた。やや駆け足にはなってしまったが私の卒業論文は以上である。

おわりに

本音をいうと中2で卒業論文のテーマを決める時は心理学系を調べるつもりはあまりなく、どちらかという自分でも知育菓子の実験をしてみても食べてみる、というような流れをイメージしていた。本研究を具体化していく中で、心理学系を調べるこ

とになったのだが、後悔はしていない。この約1年間、論文作成を通して知れたことは間違いなく意味のあることだと思うからだ。たまに、実験をしている友達などに楽しそうだったと思ったりもしたし、アンケートの数が集まらなかったり、求めている内容のサイトが見つからないなどで焦ったりもした。正直、課題研究を提出できるのか不安になる要素は思ったよりもあった。しかし、作成時間が割と楽しかったのも事実だ。

「お互い頑張りよう！」と言って励まし合った同じ担当の仲間や、私達を担当してくださった工藤先生、その他のことでも指導してくださった先生方にはとても感謝しています。

参考文献

<https://www.kracie.co.jp/foods/okashi/chiiku/#> (2024年6月3日閲覧)

<https://edu.watch.impress.co.jp/> (2024年6月3日閲覧)

<https://www.gymboglobal.jp/column/339> (2024年6月3日閲覧)

http://coeteco.jp/articles/11848#content_5 (2024年8月18日閲覧)

<https://kodomo-manabi-labo.net/chiikugashi-manabi> (2024年8月18日閲覧)

<https://school.katsuiku.org/blo/?p=7335#title3-4> (2024年12月14日閲覧)

<https://kagujyo.info/column/ego/2021/04/27/4798/#i-6> (2024年12月20日閲覧)

https://www.kracie.co.jp/release/10177571_3833.html (2024年12月27日閲覧)

<https://conobas.net/blog/education/19713/#11> (2025年1月13日閲覧)

<https://www.kracie.co.jp/foods/okashi/chiiku/jugyou/recruit/> (2024年1月13日閲覧)

